

資源ファンド(株式と通貨)

ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/
メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース

市況と業績の2つの「変化」を追い風に
一段の上昇が期待される資源株



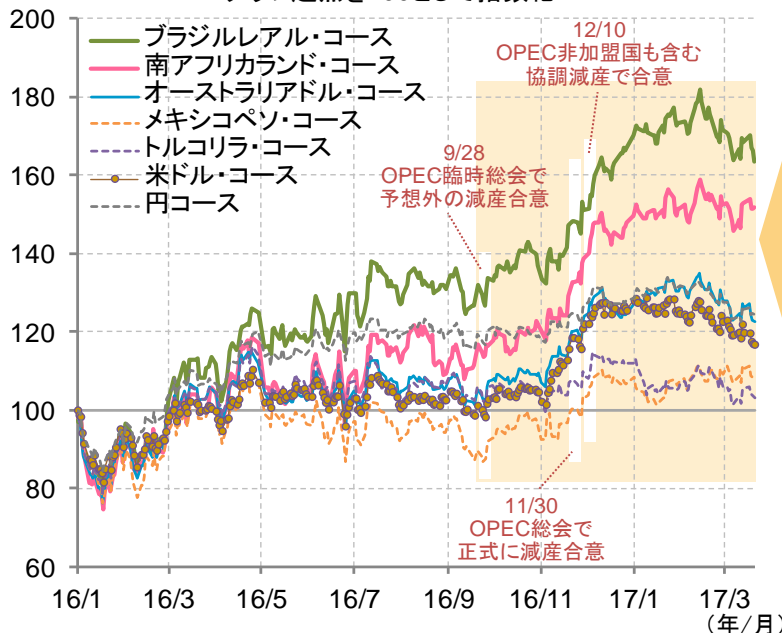
- 当ファンドの基準価額は、資源株および資源国通貨の上昇などを背景に、昨年10月以降、上昇基調となっています。これは、昨年9月末のOPEC(石油輸出国機構)臨時総会において原油の減産合意がなされて以降、協調減産に伴う需給改善期待などを背景に、資源価格が総じて堅調な推移を辿っていることが背景と考えられます。また、資源価格の回復を受け、足元では、資源関連企業の業績に底打ちがみられることも影響していると考えられます。
- 本レポートでは、足元の「資源市況」と「企業業績」の変化をお伝えするとともに、今後の見通しなどについて、運用者からのコメントをご紹介します。

資源株を取り巻く環境の改善期待が高まるなか、基準価額は大きく上昇

＜各コースの基準価額(税引前分配金再投資ベース)の推移＞

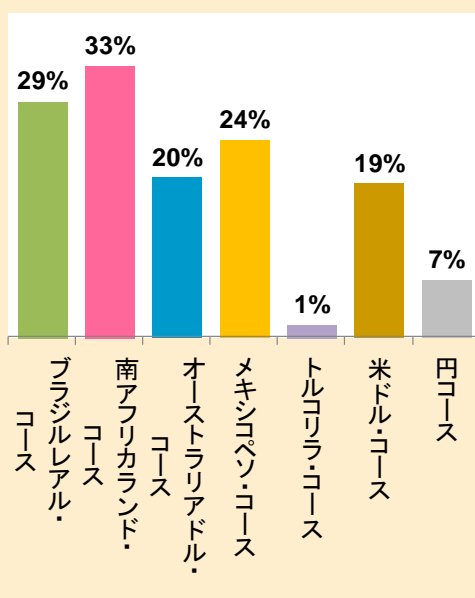
(2016年1月4日～2017年3月24日)

グラフ起点を100として指数化



＜各コースの騰落率＞

(2016年9月28日～2017年3月24日)



※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

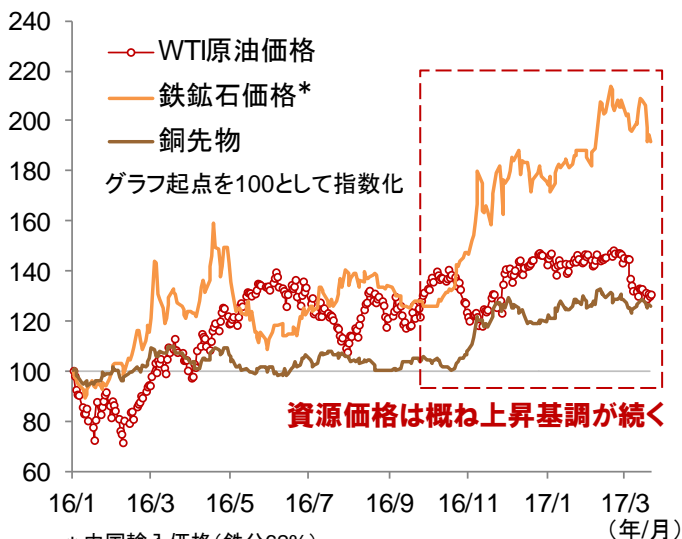
■当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

① 資源市況 上昇基調に転じた資源価格

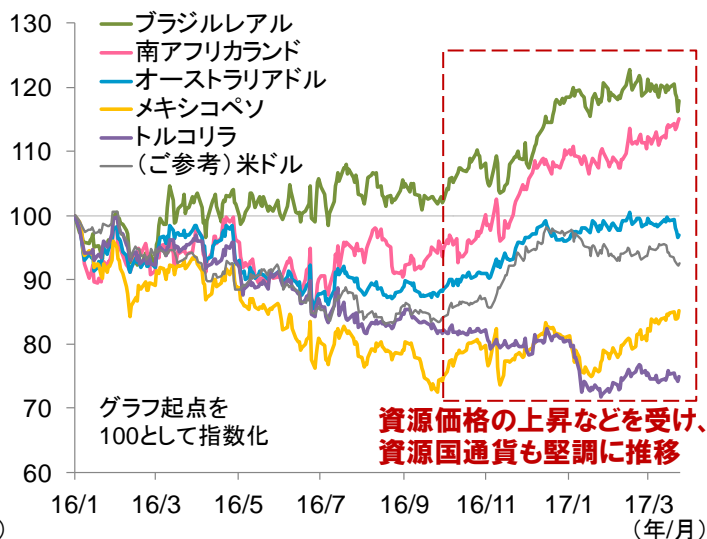
- 昨年9月末の減産合意以降、原油以外の資源価格も上昇基調となりました。背景には、減産による供給抑制だけでなく、中国・インドなどの堅調な景気を背景とした需要拡大への期待があると考えられます。さらに、トランプ米政権によるインフラ投資政策なども需要拡大につながり、資源価格の追い風になると期待されます。

様々な支援材料を背景とした需給改善期待が資源価格の上昇を支える

＜主な資源価格の推移(米ドルベース)＞
(2016年1月初～2017年3月24日)



＜資源国通貨などの推移(対円)＞
(2016年1月初～2017年3月24日)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

様々な材料が資源価格の追い風に

原油

アジアを中心とした
需要の拡大見通し

主要産油国による
原油の協調減産

鉄鉱石・銅

中国の景気回復を背景とした
鉄鋼需要の拡大

トランプ米政権による
大規模なインフラ投資への期待

さらなる需給改善・価格上昇への期待が高まる

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

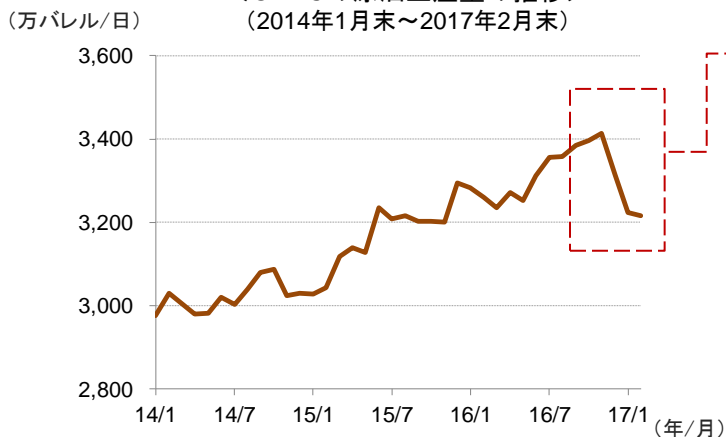
■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルレアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

①資源市況 期待される原油の需給改善

- 昨年12月のOPEC加盟国・非加盟国による原油の減産合意に伴ない、2017年6月にかけて日量180万バレル弱を目標に、減産が進められています。足元で減産が着実に進捗するなか、需給改善期待が継続するようであれば、今後の原油価格上昇の支援材料になると期待されます。

OPEC加盟国による減産は順調に進捗

＜OPECの原油生産量の推移＞
(2014年1月末～2017年2月末)



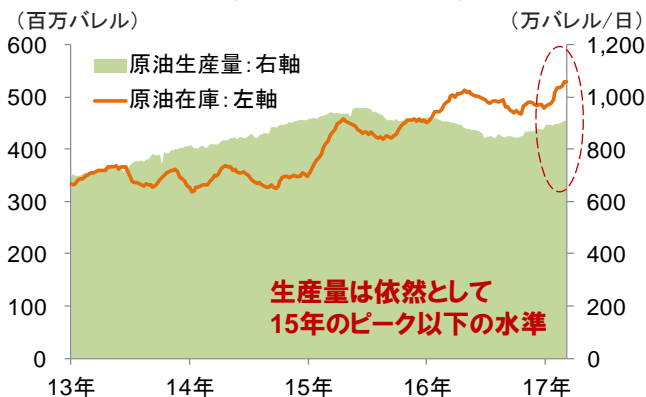
OPECの発表によると、2017年1月には、リビア・イラン・ナイジェリアを除く10カ国により、加盟国の減産目標の9割が達成されました。足元でも、多くの加盟国が減産姿勢を維持しているとみられ、需給改善につながると期待されます。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

＜注目が集まる米原油生産の動向＞

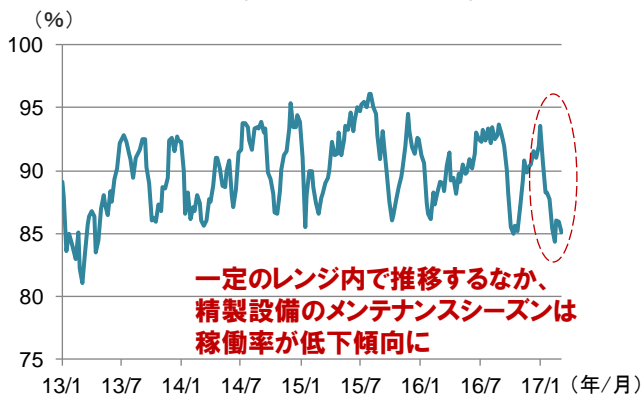
- 足元では、原油価格の安定化を受け、シェール企業が増産傾向を強めたことなどを背景に、米原油在庫が過去最高水準となっており、米国の生産増に伴う原油需給の悪化が一部で懸念されています。
- ただし、生産量は緩やかな増加に留まっており、足元の在庫増加には、原油精製設備のメンテナンスシーズン入りに伴う一時的な滞留によるところも大きいとみられています。足元のメンテナンスシーズンが終わり、在庫の増加が落ち着けば、懸念は徐々に後退していくものと見込まれます。

＜米国の原油在庫と生産量の推移(週次ベース)＞
(2013年1月第1週末～2017年3月第2週末)



生産量は依然として
15年のピーク以下の水準

＜米国の製油所稼働率の推移＞
(2013年1月第1週末～2017年3月第2週末)



一定のレンジ内で推移するなか、
精製設備のメンテナンスシーズンは
稼働率が低下傾向に

EIA(米エネルギー情報局)など、信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

②企業業績

資源関連企業の業績には底打ちの兆し

- 資源関連企業は、これまでの厳しい環境下でコスト削減や事業効率化に取り組んできました。こうした取り組みや資源価格の回復により、2016年10-12月期の決算では、前年同期と比較して増益や黒字転換など、業績底打ちの兆しを示す企業が資源メジャーを中心に多くみられました。
- 今後も、生産性や収益性の改善が進むなか、景気回復に伴う需要拡大などを背景に、業績回復・拡大ペースが一段と高まると期待されます。

直近決算では、資源メジャーを中心に黒字転換する傾向に

<ご参考:当ファンドの組入上位銘柄の直近決算>
(2016年10-12月期*)

エネルギー	当期純利益**	前年同期との比較	素材	当期純利益**	前年同期との比較
トータル (仏・総合石油)	5.5 億米ドル	黒字転換 ↑	BHPビルトン ^(注1) (英豪・鉱業全般)	32.0 億米ドル (半期ベース)	黒字転換 ↑
ロイヤル・ダッチ/シェル (英蘭・総合石油)	15.4 億米ドル	増益 ↑	モンサント ^(注2) (米・種子・農薬)	0.3 億米ドル	黒字転換 ↑
シュルンベルジェ (米・石油サービス)	-2.0 億米ドル	赤字縮小 ↑	リオ・テイント ^(注1) (英豪・鉱業全般)	29.0 億米ドル (半期ベース)	黒字転換 ↑
エクソンモービル (米・総合石油)	16.8 億米ドル	減益 ↓	インターナショナル・ ペーパー(米・製紙)	2.2 億米ドル	増益 ↑
ハリバートン (米・石油サービス)	-1.5 億米ドル	赤字拡大 ↓	パリック・ゴールド (加・貴金属)	4.3 億米ドル	黒字転換 ↑

* 決算期が異なる一部企業を除く (注1)2016年7月～12月の半期 (注2)2016年9-11月期

** 米国会計基準(GAAP)に基づく当期純利益

※組入上位銘柄は2017年2月末時点

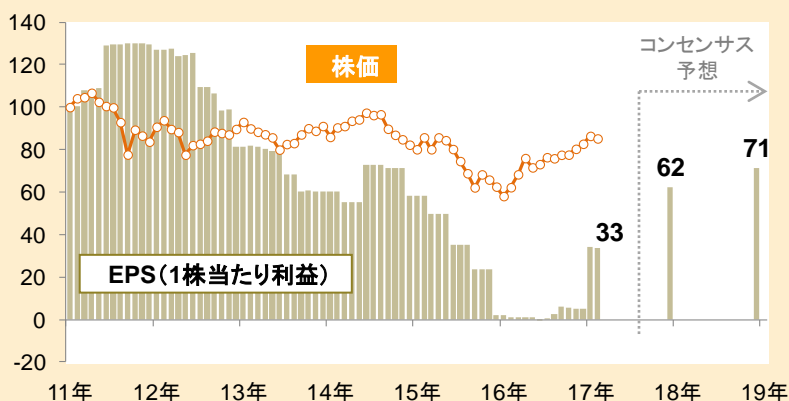
※前年同期との比較における「↑」「↓」は、当期純利益が前年同期より改善したかどうかを示しています。

※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。

また、当ファンドにおける将来の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

<資源株の株価とEPS(1株当たり利益)の推移>
(2011年1月末～2017年2月末)



資源株は今後一段と業績拡大が期待される

株価、EPSともグラフ起点を100として指数化

* EPSは2018年予想まで
予想は2017年2月末時点

資源株: S&Pグローバル・ナチュラル・リソースズ指数
(米ドルベース)

※上記は当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに
日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

運用者のコメント ～資源市況と企業業績について～

資源市況

【原油価格】 減産合意や堅調な需要見通しが追い風に

- 原油価格は、OPECの減産合意と原油需要の拡大期待を背景に、2016年末にかけて大きく上昇しました。減産合意の遵守には懐疑的な見方もあるものの、2017年初以降、いくつかの産油国で遵守されていることが明らかとなっています。
- 需要面では、EIA(米エネルギー情報局)やIEA(国際エネルギー機関)が需要予想を上方修正しており、特に、2月のEIA予想では、中国の需要予想が2018年にかけて年6%程度の上方修正となりました。さらに、米国などで見込まれる経済政策により、景気回復が進めば、一段の需要拡大につながり、原油価格の押し上げ要因になると期待されます。

【金属価格】 構造的な供給不足が価格の下支え要因に

- 金属・鉱物市場は、中国からの力強い需要などを背景に見通しが改善するなか、2016年半ば以降、大きく上昇しました。新しい鉱山における供給増加が需要増に追いついていないとみられ、一部での供給不足の顕在化が価格の大幅な上昇につながったと考えられます。
- 今後も、鉱山企業の投資抑制に伴う供給力の低下は、金属価格上昇の追い風になると期待されます。特に、銅に関しては、鉱石に占める銅の含有量の低下や、銅含有量の高い鉱山の発見が遅れていることなどに伴う構造的な供給不足が見込まれていることなどから、中長期的な価格上昇が期待されます。

企業業績

【エネルギー株】 総合石油企業を中心に、総じてポジティブな決算内容に

- 2016年10-12月期のエネルギー企業の決算は、原油価格の回復基調などを背景に、総合石油企業や、探査・開発分野の企業を中心に、総じて市場予想を上回る内容となりました。特に、石油メジャーなどの大手総合石油企業は、経営効率の改善を通じて、原油価格が大きく回復しなくても十分なキャッシュフローを生み出せる体制が整ってきており、今後もこうした効率化が進むと見込まれています。
- 石油関連企業に掘削装置などを提供する、装置・サービス分野の企業は減益傾向となったものの、石油の生産活動の活発化を受け、売上高は回復しました。今後は、シェール企業を中心に設備投資の増加が見込まれるなか、装置・サービス企業は徐々に価格決定力を強めていくとみられ、収益改善が期待されます。

【素材株】 市場予想を下回ったものの、金属価格の上昇を背景に収益が改善

- 金属・鉱山など素材企業の決算では、市場が期待するほどの収益の伸びはみられなかったものの、前年比ではプラスとなり、改善傾向にあることが示されました。2016年半ば以降に、鉄鉱石や金の価格が上昇傾向となったことがプラスに働いており、今後も金属の需給改善が追い風になると期待されます。

※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

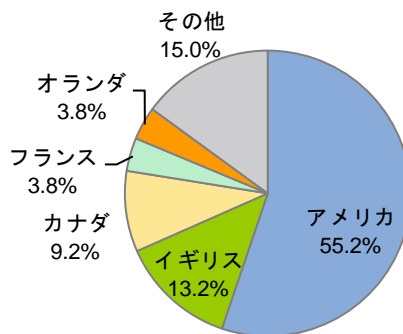
※以下は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」のポートフォリオの内容です。

ポートフォリオ概要 (2017年2月末現在)

業種比率

業種	比率
エネルギー	50.0%
素材	46.2%
不動産	2.2%

国別株式組入比率



株式組入上位10銘柄

	銘柄名	国名	業種	比率
1	BHPビリトン	イギリス	素材	5.78%
2	モンサント	アメリカ	素材	4.22%
3	リオ・テイント	イギリス	素材	4.05%
4	トタル	フランス	エネルギー	3.76%
5	ロイヤル・ダッチ/シェル	オランダ	エネルギー	3.75%
6	シュルンベルジェ	アメリカ	エネルギー	3.66%
7	インターナショナル・ペーパー	アメリカ	素材	2.92%
8	エクソンモービル	アメリカ	エネルギー	2.78%
9	バリック・ゴールド	カナダ	素材	2.52%
10	ハリバートン	アメリカ	エネルギー	2.52%

【銘柄数:70銘柄】

※上記比率は、「ナチュラル・リソース・ファンド」の組入株式評価総額に対するものです。
※各数値は四捨五入処理をしておりますので、合計が100%にならない場合があります。

【ご参考】株式配当利回りと各通貨の金利差相当分

(2017年2月末現在)

	ブラジル リアル・コース	南アフリカ ランド・コース	オーストラリア ドル・コース	メキシコ ペソ・コース	トルコ リラ・コース	米ドル・ コース	円コース
株式配当利回り	2.42%	2.42%	2.42%	2.42%	2.42%	2.42%	2.42%
金利差相当分	11.41%	6.30%	0.84%	5.82%	10.23%	—	▲0.84%
合計	13.83%	8.71%	3.25%	8.24%	12.65%	2.42%	1.58%

●株式配当利回り:「ナチュラル・リソース・ファンド」の株式配当利回り

●金利差相当分:各通貨の短期金利から米ドル短期金利を差し引いて算出。使用している各金利は以下の通り。

ブラジルリアル:1ヵ月国債利回り、南アフリカランド:ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリッド・レート1ヵ月、

オーストラリアドル:1ヵ月物銀行手形金利、メキシコペソおよびトルコリラ:銀行間金利、円および米ドル:1ヵ月LIBOR

※各数値は四捨五入処理をしておりますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

※金利差相当分は、各資産国通貨と米ドル間の金利差水準によっては為替取引によるコストとなり、運用成果にマイナスに働くこともあります。

※実際の運用においては、為替取引時の手数料相当額などが金利差相当分に加味されます。

日興アセットマネジメント アメリカズ・インクより提供された情報をもとに、日興アセットマネジメントが作成

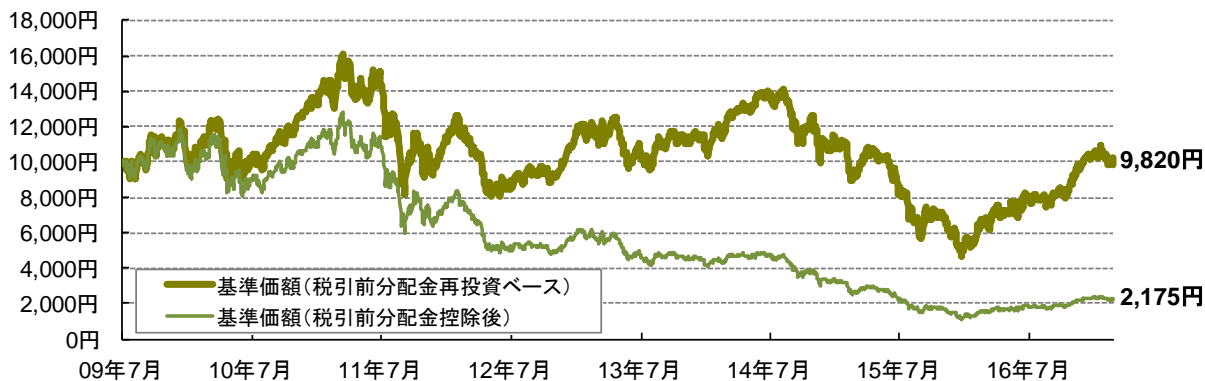
※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額と分配金の推移

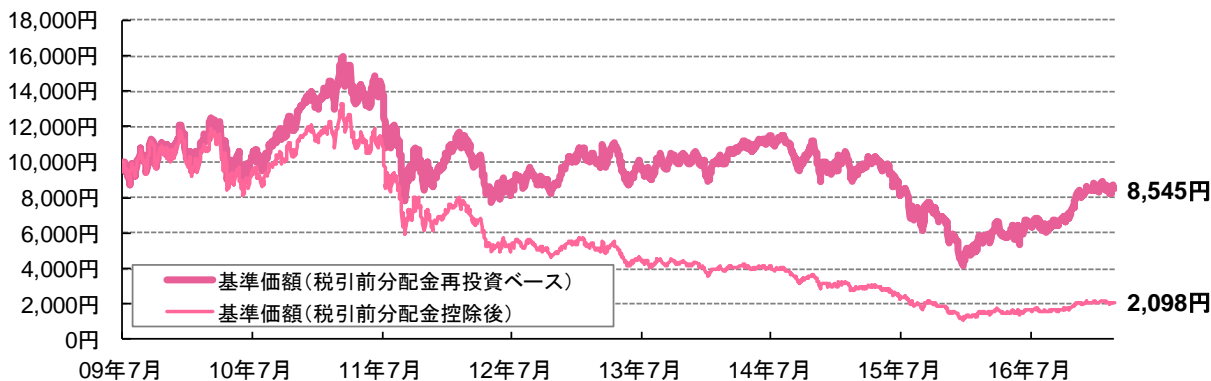
2009年7月31日(設定日)～2017年3月24日

ブラジル
リアル・
コース



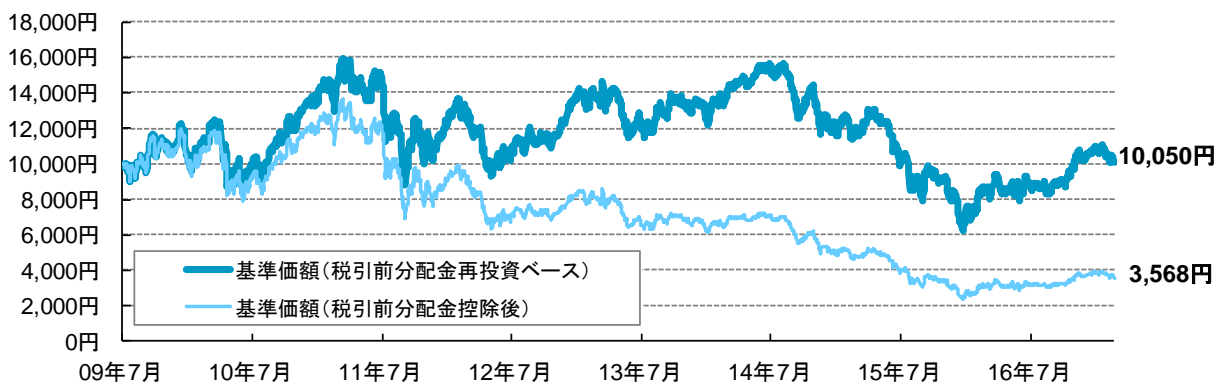
分配金実績	09/9～09/10	09/11～10/12	11/1～12/5	12/6～13/9	13/10～14/12	15/1～15/6	15/7～15/12	16/1～17/3
	90円/月	120円/月	150円/月	120円/月	100円/月	60円/月	30円/月	10円/月

南アフリカ
ランド・
コース



分配金実績	09/9～09/12	10/1～10/12	11/1～12/5	12/6～13/9	13/10～14/12	15/1～15/6	15/7～15/12	16/1～17/3
	70円/月	100円/月	150円/月	120円/月	80円/月	50円/月	25円/月	10円/月

オーストラリア
ドル・
コース



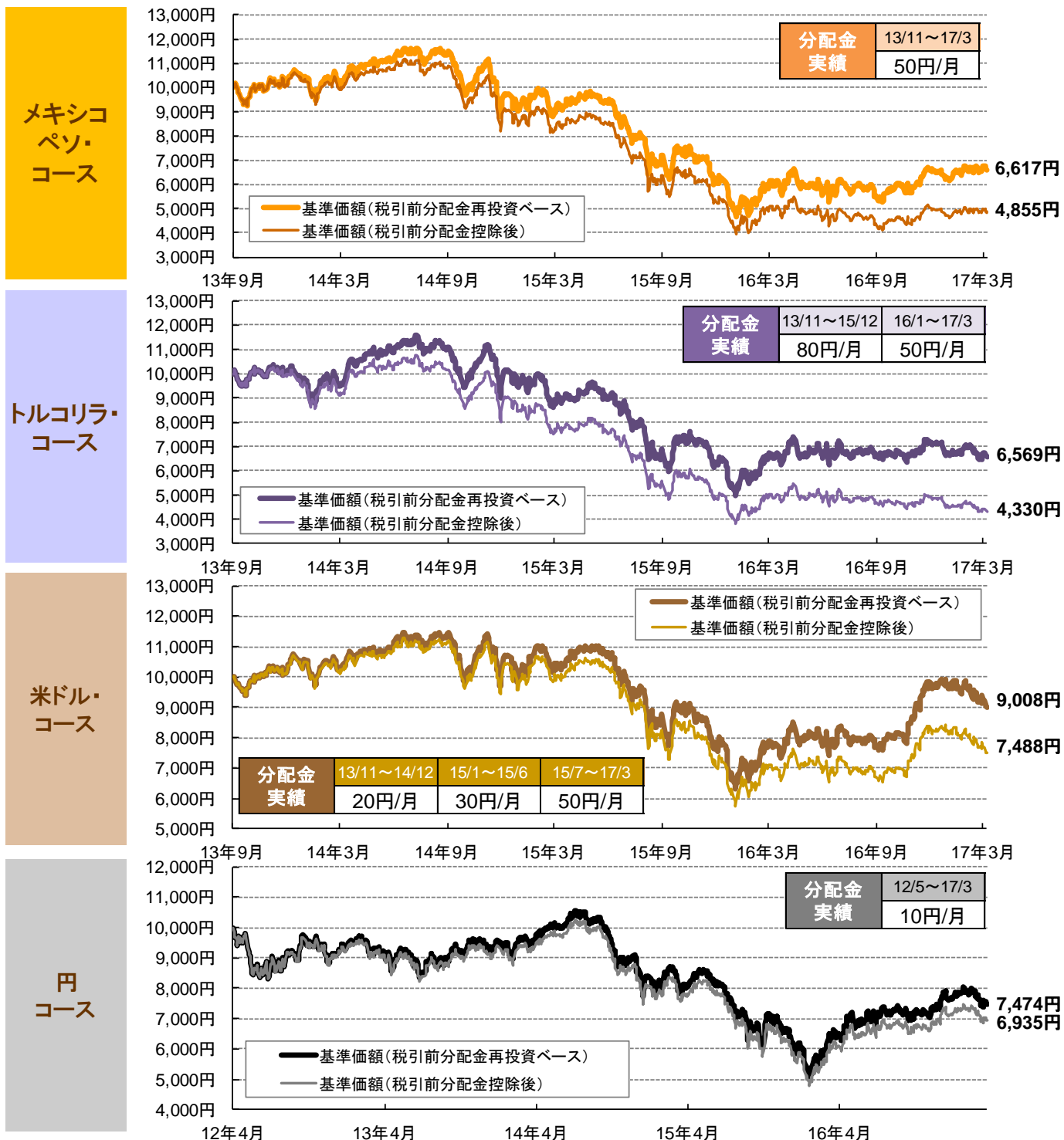
分配金実績	09/9～09/10	09/11～10/12	11/1～12/5	12/6～13/9	13/10～14/12	15/1～15/6	15/7～15/12	16/1～17/3
	40円/月	80円/月	150円/月	120円/月	100円/月	60円/月	30円/月	10円/月

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。
 ※ 税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものであることにご留意ください。
 ※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額と分配金の推移

2013年9月18日(設定日)~2017年3月24日
※円コースのみ、2012年4月2日(設定日)~2017年3月24日



※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。

※ 税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものであることにご留意ください。

※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

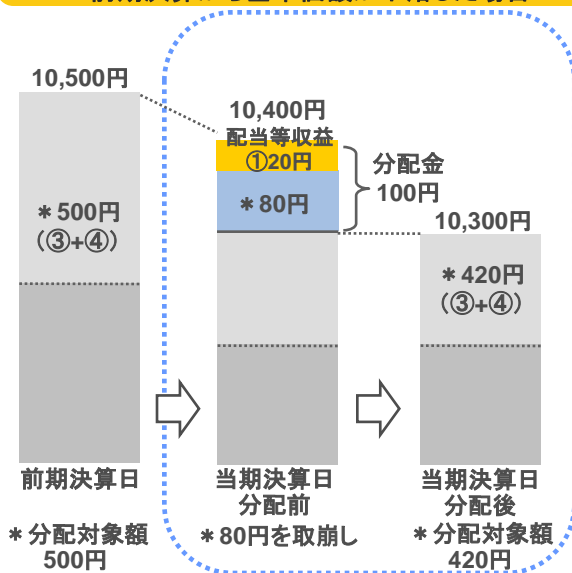
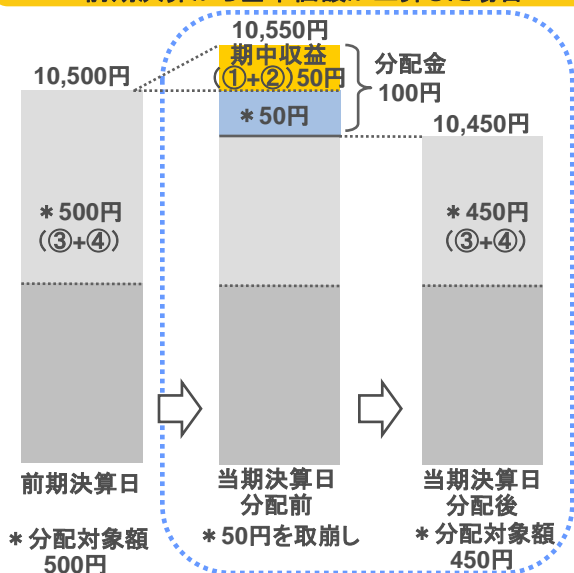


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合

前期決算から基準価額が下落した場合

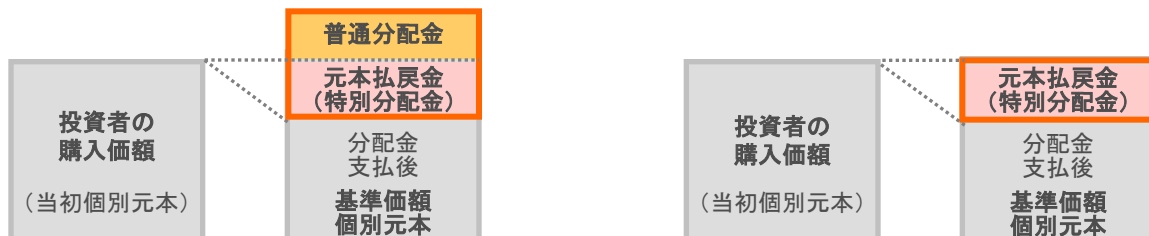


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 ※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

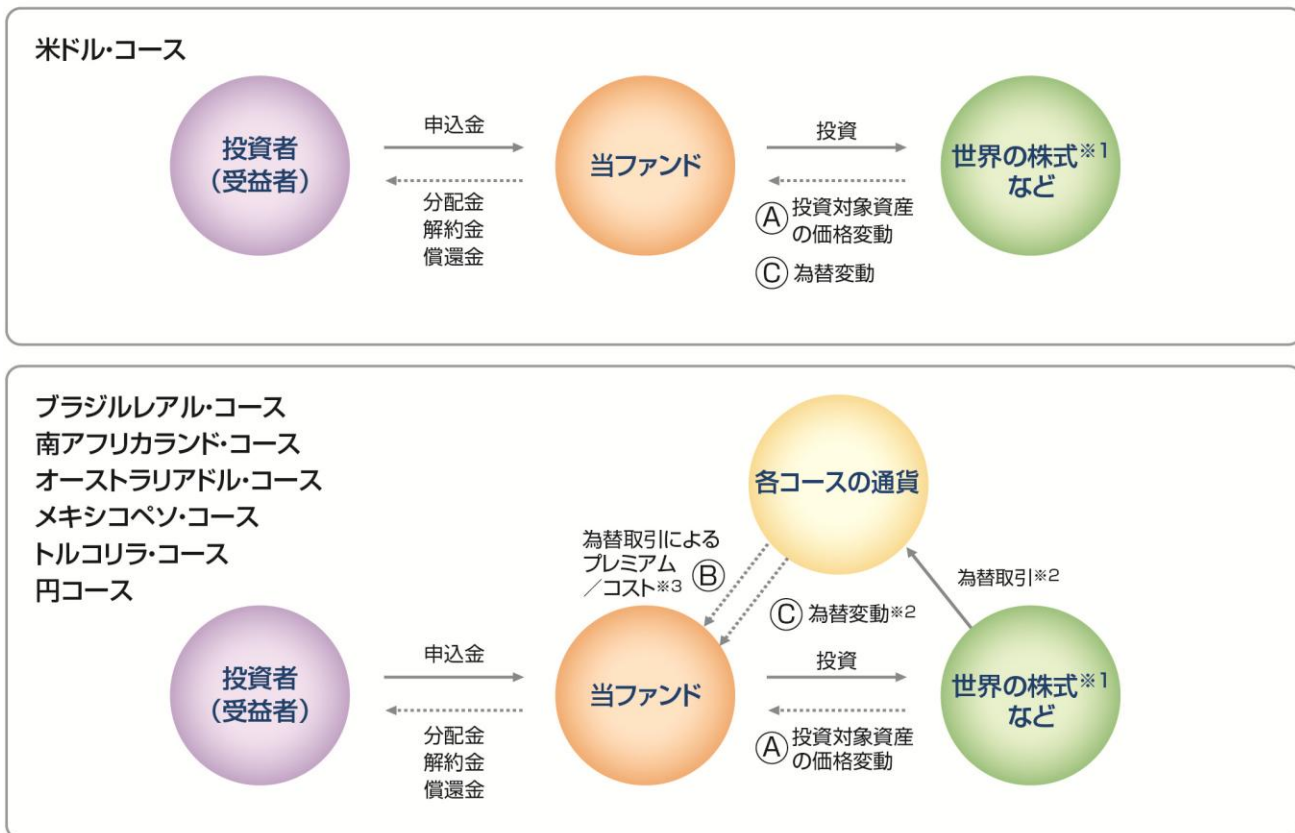
普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金(特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

通貨選択型ファンドの収益に関する留意事項①

- 通貨選択型の投資信託は、投資対象資産(株式や債券など)の運用に加えて、為替取引による通貨の運用も行っており、為替取引の対象となる通貨を選択することができます。

通貨選択型の投資信託のイメージ図



※¹ 当ファンドは、外国投資信託を通じて世界の株式に投資を行いません。

※² 円コースは、原則として為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。各コースの通貨が円以外の場合には、各コースの通貨と円の為替変動リスクがあります。

※³ 為替取引によるプレミアム/コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益/費用です。

通貨選択型ファンドの収益に関する留意事項②

- 通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。なお、収益源である3つの要素にはリスクが内在しています。詳しくは、「リスク情報」をご覧ください。

収益の源泉		=	(A) 株価の値上がり/値下がり	+	(B) 為替ヘッジプレミアム/コスト	+	(C) 為替差益/差損
米ドル・コース	収益を得られるケース		株価の上昇*		為替ヘッジを行なわないのでありません。		為替差益の発生 原資産通貨に対して 円安
	損失やコストが発生するケース		株価の下落*				為替差損の発生 原資産通貨に対して 円高

収益の源泉		=	(A) 株価の値上がり/値下がり	+	(B) 為替ヘッジプレミアム/コスト	+	(C) 為替差益/差損
円コース	収益を得られるケース		株価の上昇*		ヘッジプレミアムの発生 円の金利 - 米ドル金利 が プラス		原則として 為替ヘッジを行ない、 為替変動リスクの 低減を図ります。
	損失やコストが発生するケース		株価の下落*		ヘッジコストの発生 円の金利 - 米ドル金利 が マイナス		

収益の源泉		=	(A) 株価の値上がり/値下がり	+	(B) 為替取引によるプレミアム/コスト	+	(C) 為替差益/差損
ブラジルリアル・コース 南アフリカランド・コース オーストラリアドル・コース メキシコペソ・コース トルコリラ・コース	収益を得られるケース		株価の上昇*		プレミアム (金利差相当分の収益)の発生 各コースの — 米ドル金利 通貨の金利 が プラス		為替差益の発生 各コースの通貨に対して 円安
	損失やコストが発生するケース		株価の下落*		コスト (金利差相当分の費用)の発生 各コースの — 米ドル金利 通貨の金利 が マイナス		為替差損の発生 各コースの通貨に対して 円高

*ADRに投資する場合、ADRの価格には、当該現地株式の通貨に対する米ドルの変動が含まれます。そのため、当該現地株式の通貨に対して米ドル安であれば、株価上昇要因、当該現地株式の通貨に対して米ドル高であれば、株価下落要因となります。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

通貨運用に関する留意事項

- 各通貨の運用に当たっては、直物為替先渡取引(NDF取引)を活用する場合があります。
- NDF取引とは、投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行なう取引のことを言います。
- NDF取引では、需給や規制などの影響により、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が、短期金利から算出される理論上の水準から乖離する場合があります。そのため、想定している投資成果が得られない可能性があります。

■為替取引には、為替ヘッジ(原資産通貨を売り、円を買う取引)が含まれています。為替ヘッジの場合、「為替取引によるプレミアム/コスト」を「為替ヘッジプレミアム/コスト」といいます。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

- 1 主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
- 2 「ブラジルリアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「メキシコペソ・コース」「トルコリラ・コース」「米ドル・コース」「円コース」の7つのコースがあります。
- 3 毎月、収益分配を行なうことをめざします。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式(預託証券を含みます。以下同じ。)を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様は「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様は帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身で判断ください。

お申込メモ

- 商品分類 追加型投信／内外／株式
- ご購入単位 購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
- ご購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- ご購入不可日 購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に当たる場合は、購入のお申込みの受付（スイッチングを含みます。）は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託期間 【ブラジルリアル・コース】【南アフリカランド・コース】【オーストラリアドル・コース】
2024年6月17日まで（2009年7月31日設定）
【メキシコペソ・コース】【トルコリラ・コース】【米ドル・コース】
2024年6月17日まで（2013年9月18日設定）
【円コース】2024年6月17日まで（2012年4月2日設定）
- 決算日 毎月17日（休業日の場合は翌営業日）
- ご換金不可日 換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に当たる場合は、換金請求の受付（スイッチングを含みます。）は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ご換金代金のお支払い 原則として、換金請求受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時に直接ご負担いただく費用>

■ 購入時手数料 : 購入時手数料率(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は、3.78%(税抜3.5%)を上限として販売会社が定める率とします。
※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

■ 換金手数料 : ありません。

■ 信託財産留保額 : ありません。

※ 販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行なえない場合があります。また、販売会社によっては、他のファンドとスイッチングを行なえる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

■ 信託報酬 : 純資産総額に対して年率1.79%(税抜1.71%)程度を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.08%(税抜1%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.71%程度となります。
受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ その他費用 : 【ブラジルリアル・コース】【南アフリカランド・コース】【オーストラリアドル・コース】
目論見書などの作成・交付にかかる費用および監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。
※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

【メキシコペソ・コース】【トルコリラ・コース】【米ドル・コース】【円コース】
目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。
組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。
※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社 日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会
- 受託会社 野村信託銀行株式会社
- 販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。
日興アセットマネジメント株式会社
[ホームページ]http://www.nikkoam.com/
[コールセンター]0120-25-1404 (午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

【ブラジルリアル・コース】【南アフリカランド・コース】【オーストラリアドル・コース】

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
藍澤證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第6号	○	○		
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○		○	
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第35号	○			
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○			
SMBCフレンド証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第40号	○			○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社ジャパンネット銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第624号	○		○	
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第114号	○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○	
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第21号	○	○		
ひろぎんウツミ屋証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第20号	○			
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第6号	○		○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

【メキシコペソ・コース】【トルコリラ・コース】【米ドル・コース】【円コース】

金融商品取引業者等の名称		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
藍澤證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第6号	○	○		
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○		○	
エイチ・エス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第35号	○			
エース証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第6号	○			
SMBCフレンド証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第40号	○			○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○			
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第114号	○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○			
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第131号	○		○	
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第21号	○	○		
ひろぎんウツミ屋証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○			
フィデリティ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第152号	○			
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第165号	○	○	○	
丸八証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長(金商)第20号	○			
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

(いずれも50音順、資料作成日現在)

■当資料は、投資者の皆様へ「資源ファンド(株式と通貨)ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース/メキシコペソ・コース/トルコリラ・コース/米ドル・コース/円コース」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。